



「私もパウロのように選びの器です」

パウロに与えられた使命、みことばが、パウロをどのように引っ張って導かれたかをいっしょに見ながら、「私も選びの器だ」という確信を持って祈りましょう。

(使徒9:15) しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。」

(使徒1:8) しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。

## 1課 ローマも見なければならぬ

フォーラムのポイント：「御霊の示しにより」

使徒19:21

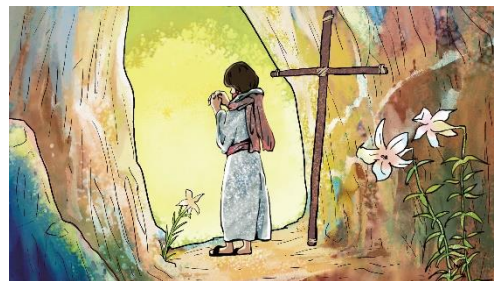
これらのことが一段落すると、パウロは御霊の示しにより、マケドニアとアカヤを通ったあとでエルサレムに行くことにした。そして、「私はそこに行ってから、ローマも見なければならぬ」と言った。

パウロが、自分が神様のために目標を自指して告白したわけではありません。パウロがこのように告白したのも、御霊の示しによってできたことです。

主役、主体は神様であり、人ではありません。

すべての人の主役、主体は「神様、キリスト」です。

「エルサレム」(イスラエルの子孫)に行くことは、パウロが自分の意志で行こうとしたのではなく、使徒1:8にある「みことばの成就」の流れの中で、導かれたということです。



## 2課 ローマでもあかしをしなければならない

フォーラムのポイント：「主が」

ここでも主体は「主（神様）」です。

使徒23:11

その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない」と言われた。

1課で見た使徒19章から、2課の23章の間にあったのは、为什么呢。

エペソ→エルサレム→ローマへ

エペソで大きな働きがあり、そのあと、「パウロは御霊の示しにより、・・・エルサレムに行くことにした。そして、『私はそこに行ってから、ローマも見なければならない』と言った。」と書いてあることが成就して、エルサレムに行きました。エルサレムで大きな騒動が起こり、パウロが捕らえられます。そこで、主がパウロに告げられます。

その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない」と言われた。(23:11)

まだ、パウロの使命は終わっていないということです。

2課は、使徒1:8にある「ユダヤとサマリアの全土」の成就ということです。



3課 <sup>か</sup> <sup>おそ</sup> 恐れてはいけません。パウロ。あなたは <sup>かなら</sup> 必ず <sup>まえ</sup> <sup>た</sup> カイザルの前に立ちます

フォーラムのポイント：「<sup>かみ</sup> <sup>みつか</sup> 神の御使いが」

使徒27:23-24

<sup>さくや</sup> <sup>わたし</sup> <sup>しゆ</sup> <sup>わたし</sup> <sup>つか</sup> 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、<sup>わたし</sup> <sup>まえ</sup> <sup>た</sup> 私の前に立って、<sup>い</sup> こう言いました。『<sup>おそ</sup> 恐れてはいけません。パウロ。あなたは <sup>かなら</sup> 必ず <sup>まえ</sup> <sup>た</sup> カイザルの前に立ちます。そして、<sup>かみ</sup> <sup>どうせん</sup> 神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ここでも<sup>しゆたい</sup> <sup>かみさま</sup> 主体は「神様」です。

<sup>いほうじん</sup> 「異邦人、<sup>おう</sup> カイザル（王たち）」に<sup>む</sup> 向かって<sup>ゆ</sup> <sup>ばめん</sup> 行く場面です。

<sup>き</sup> <sup>き</sup> <sup>もんだい</sup> どんな危機や問題があっても、<sup>かみさま</sup> <sup>しめい</sup> 神様がくださった使命、<sup>じょうじゆ</sup> <sup>み</sup> みことばが成就することを見ましょう。

<sup>せいかつ</sup> <sup>ちゆう</sup> <sup>べんきよう</sup> いま、生活の中で、勉強して、<sup>き</sup> メッセージを<sup>がっこう</sup> 聞いて、<sup>かんきよう</sup> <sup>ちゆう</sup> <sup>お</sup> 学校で、いろいろな環境の中で起こっているすべては、<sup>かみさま</sup> <sup>けいかく</sup> <sup>ちゆう</sup> <sup>なが</sup> 神様の計画の中で流れていっているということです。<sup>もんだい</sup> 問題があっても、<sup>えら</sup> だいじょうぶです。選ばれた<sup>うつわ</sup> <sup>しめい</sup> <sup>あた</sup> 器であり、使命が与えられているので、<sup>かみさま</sup> <sup>しゆたい</sup> 神様が主体となって、<sup>ひ</sup> <sup>ば</sup> <sup>みちび</sup> 引っ張って導いてくださいます。



## 4課 止められない福音

フォーラムのポイント：「すべてが益となる」

ローマ 8:28

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

「すべてのことを働かせて益としてくださる」ということは、ローマ 8:35 で言われているようなことがあっても、ということです。

「（私たちがキリストの愛から引き離すのはだれですか。）患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」

このようなことが、神様の選びの器にはない、ということではなく、このようなことがあっても、だいじょうぶだということです。このようなすべてのことを通して、神様は「ただイエス・キリストを宣べ伝える」「イエス・キリストを現わす」益としてくださるということです。

もし、それが、死であっても、神様には益なのです。

ピリピ 1:20-21

それは私の切なる祈りと願いにかなっていません。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。

これらの告白が、パウロの告白ではなく、レムナント、働き人の告白となることをお祈りします。

6月、与えられたみことばを深く黙想して神様と疎通する祈りを通して勝利する一か月となりますように。

